

14章 ネットワーク論的アプローチ

- 家族集団論のゆらぎ：集団論の境界が曖昧→親族・近隣・友人・職場仲間の網目の中に家族を位置づける ネットワークを分析概念として検証
- 認知ネットワークとしての家族：世帯と家族は違う 家族は親族へ広がる
- 家族変動論の背景：高度成長期、都市化の時代、コミュニティ・ネットワークの弛緩の中で家族の単位が析出する→核家族化/性別役割分業の発生
- アイデンティティとネットワーク：安定としがらみ：分岐・分散型ネットの方が個人を自由にする
- サポート：女性：親族、規模の大きいネットはディストレス/男性：分散ネットはストレス解消

ネットワーク 2

- 親族・近隣ネットは伝統的家族観を再生産、多様な他者ネットは個人を通念から解放する
- 家族のライフスタイル化：子育てネットのサポート（多元的ネットが心理的負担を軽減）、自助グループの親ネット（ライフスタイルの分化と安定）
- ネットワーク現象としての家族：Simmel同心円的社会圏から複数の社会圏の交錯→個人の析出
（）現代人は複数の社会圏を移動→アイデンティティの転換・変容、それを促し、安定化させるネットワーク
- Q：君たちのネットワーク 心地よさ、頼りがい

15章 家族ライフスタイル論的アプローチ

- 家族ライフスタイル: 個人の主観的意味づけに基づく家族観と他者とのパートナーシップ
- 妻の就労形態に伴う共同選択過程: 夫婦間の配慮 ← 役割分業の強い社会との軋轢、夫の理解
- 個人的選好と家族員了解の取り付け・交渉
- 何が問題になるのか? 1)結婚の形態、2)子供の教育、3)介護、4)社会生活(交遊、近隣、親族、職場等々) 夫婦間、親子間の調整は、従来のように社会通念や伝統によらず、家族間の直接的交渉による
- Q: ライフスタイルの多様化は望ましいか? 多様化か階層化か? 全て選択できることが自由か?